

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400056		
法人名	社会福祉法人 さいか		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホーム楓の杜		
所在地	兵庫県豊岡市竹野町林600番地		
自己評価作成日	令和8年2月20日	評価結果市町村受理日	令和8年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201
訪問調査日	令和8年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中で利用者様が出来る事はして頂く支援をしている。食事調理補助・感染症対策・日々の掃除等日常生活で常に求められる行動を通じて支援している。利用者様のサークル活動にも協力し週3回のハンドベル練習活動・折り紙による四季の草花・桃の節句おひな様・クリスマスツリー・正月門松作成の支援協力を地域の方の支援の下精力的に取り組んでいる。完成した作品は地域の展示会に出品し、利用者様と一緒に鑑賞する活動をしている。利用者様のハンドベル演奏活動では、施設他部署の利用者様にも演奏会を設けて披露している。利用者様目標を持たれ、日々生き生きと生活できる環境の提供に努めている。

敷地内の併設就労継続支援事業所の障害者とのふれあいはこれまでも自然な形であったが、この度、認知症高齢者と障がい者とのハンドベルの定期的な合同練習の成果としてコラボによる演奏会を開催することができた。非常に好評で、これからも続けてほしいとの期待は大きい。同様に、個々の趣味や得意な分野を披露する機会や楽しむ場を日常的に設けることで、その人らしい暮らしを支えている。さらに、週2日の昼食限定ではあるが、その日の献立から必要な食材を考え、利用者と共に調理し、一緒に食べる楽しみが再開され、本来のグループホームの良さが見直されている。高齢化や重度化は避けられなくとも、やり方や内容を工夫することで、利用者の生き生きとした楽しそうな表情が戻ってきている。今を生きているこの笑顔をいつまでも大事にしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	原則豊岡市在住の方の利用運営に努める。施設入所申込者豊岡市以外の申込者についても行政間の協議を踏まえ柔軟に対応している。	入職時及び必要に応じて、理念の周知には努めている。介護の知識や技術は必要であるが、利用者と向き合い支援する立場の心のありようが大事であると考えている。例えば技術は未熟であっても気持ちを大切に介護を職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策を取りながら、地域の花火大会・盆踊り・文化祭に出かけた。	地域のイベントや季節行事には、利用者共に参加し楽しんでいる。ただ、地域住民としての参加にとどまり、事業所自体が地域の一員には至らず、日常的な交流ができているとはいえない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の日々の思い・意向の把握に努め出来るだけ実現できるよう柔軟に対応した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2025年6月より開催予定をしていたが感染症の蔓延があり、2026年1月に開催実施し、3月開催予定をしている。	今年1月に再開され、事業所からは利用状況や運営・行事、職員の研修、防災関連の報告、利用者からは手作り調理や日々の様子などを説明した。参加者からの質問をもとに意見交換を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険継続申請・区分変更申請・事故発生時の市への報告・但馬認知症研修会への参加取り組みをする。	必要に応じて相談、情報交換を行い、関係性を築くよう努めている。3月に入り、権利擁護の研修案内があり、職員が参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	楓の杜施設内での身体拘束委員会の参加する。	法人内研修に参加し、定期的に学んでいる。各事業所からの事例を持ち寄り、グループワークを通して、職員の意識向上を図るとともに意識の統一につなげている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で状況に応じた虐待防止の重要性・方向性の検証をした。	現在、ベッドからの移乗による転倒防止のため、コールマットによる見守りを行っている人がいる。利用者への声かけに際しては、不適切な対応にならないよう職員間で注意合っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政が開催する講習会には参加をする様取り組んだ。	毎年行われる市の研修会に、定例的に参加し職員に周知している。該当する利用者はいないが、必要があれば情報提供できる準備はしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設利用にあたり契約締結時には複数人で対応し、重要事項説明・契約説明に努めた。	契約時の手続きにあたっては、家族から事業所をいつまで利用できるかという不安を聴くことが多く、事業所の方針や医療面での対応について、丁寧に説明している。契約関連の手続き等は必ず複数人で担当している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設からのアンケート・第三者評価によりアンケート結果を反映できる運営に努めた。	家族から運営に関する意見等を聴くことはほとんどない。個別の思いや要望は、来訪時や電話の際にこちらからも声をかけ、遠慮なく言ってもらえるようお願いしている。まずは、受け留めることを心がけ、そのうえで反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見も取り入れ運営に反映した。(職員のグローバル化も進む)	現在、外国籍の職員を雇用しており、職員からの要望を参考に国の特性や習慣に適した働きやすい職場環境の整備を図った。ケアの方針や内容についてもミーティングで話し合い共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法廷休日・年次有給休暇消化の推奨取り組み・計画残業時間の短縮等労働環境整備に努めた。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種委員会等の出席・行政による研修会への参加・認知症証実務者研修・管理者研修・消防管理者免許取得等研修・講習参加に取り組んだ。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症対策の為に実施していない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居利用者様には管理者・ケアマネ・現場リーダー等が必要な支援を考え提供した。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時点での不安・疑問等を聞き丁寧な説明を複数人で行う取り組みをした。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネ・現場リーダーと検討して最善な支援を考え実践した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で本人の意思を尊重し利用者目線で考え関係を構築した。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子を写真等でみて頂き、面会にも気軽に来所できる環境を整えた。(感染症対策十分に取り入れ)		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方の来訪も柔軟に対応した。(感染症対策をしたうえで)	併設施設との交流が継続されている。得意な童謡を家族にお披露目したり、元の職場の同僚が尋ねてきたこともある。家族の面会も多く面会室でおしゃべりを楽しんでいる。看護師による折り紙ボランティアも好評である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同して出来る事はして頂き、調和を基本とした生活が送れる環境を整えた。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設運営の中で柔軟に対応した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の日々の思い・意向の把握に努め出来るだけ実現できるよう柔軟に対応した。	入居の際、事前情報をもとに人物像を想定するが、面談の時点で本人の表情や様子である程度は理解するが、入居後に本人との話を重ねるうちに様々な事が紐解かれ、好きなことや望みを知ることもある。職員からの情報も集約し本人の意向を知る努力をしている。心配は杞憂に終わることも多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴の把握に努めた。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で利用者様の身体状況の考察を行い、出来るだけ共有できる体制を構築した。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に基づき支援をする事・日々のモニタリング等を支援計画に取り入れ、進行する身体状況に即した態勢作りに務めた。	日頃の情報収集は本人はもとより、全職員からの聞き取りを行い更新時にはモニタリングと共にケアマネジャが集約し、適切に更新されている。介護ソフトの業務日誌に各職員が日々の記録を行っている。心身状況の変化や介護保険更新時にはアセスメントを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	PCソフトほのぼのを活用し、細分化的な入力も取り入れた。入力については不慣れな職員もいたが個々に協力した。又、ライフ入力も精力的に実施した。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に柔軟に対応した。(出来ない・出来ない)、もその時々で判断し対応した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用(豊かな自然・農作物・四季の果物)を提供しながら、心豊かな生活が営めるよう努力した。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居利用者様には主治医による訪問診療受託に協力して頂いた。現在の入居利用者様は全ての方が主治医による訪問診療を受けられている。	協力医は複数名いる。在宅時からの継続医師もあるが、契約時にはほぼ協力医を選んでいる。他科受診は家族同行が原則であるが、難しい場合グループホーム側で同行することもある。便秘薬の調整などは指示を仰ぎながら職員が調整している。すぐに相談でき指示を仰げる体制がある。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師は配置していないが、他部署担当の看護師に協力要請している。介護職より他部署看護師に報告し主治医にも看護師より状況を報告している。			
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサービス計画担当ケアマネより医療機関にサマリーを提供し、退院時には医療機関より必要なサマリーを主治医・サービス計画担当ケアマネに頂いている。	入退院事例は少ないが、入院時には介護情報提供書を送り退院時には看護情報が提供されている。病院都合で退院時カンファレンスは特に開催されていないが面会の制限はなかった。病院より主治医・ケアマネジャへのサマリー提供はされている。早期退院が叶うよう情報共有に努めている。		
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族様より意思確認書を頂いている。又、重篤化されるような状態になられた時には、再度主治医・施設・家族様との間で最終の確認をしている。	重度化や看取りについての指針が整備されている。契約時には意思確認書も丁寧に説明の上で納得を得て署名している。状況に応じて医師からの説明を受け家族、施設との話し合いが行われている。家族の思いを尊重しつつ、不安を軽減できるよう職員は言葉かけや環境に配慮した。		
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特変時は家族様・主治医に報告し主治医の判断を仰いでいる。救急搬送も遅滞なく実施・家族様にも同伴の協力を頂いている。			
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	豊岡市防災課指導要領に基づき指定されている防災避難施設までの避難訓練を8月最終の日曜日に実施している。又、消防訓練も同日に並行して実施。	法人によるBCPが策定されている。法定訓練は合同で避難訓練が実施されている。自主訓練は風水害を想定し高台にあるグリーンパークへ利用者全員移動を行った。災害備蓄品は一部事業所保管しているが法人本部での管理となっている。	災害備蓄品については事業所内での必要物品の準備と管理が望まれます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々利用様の尊厳を重視して対応した。	プライバシーを守れる居室＝自分の住まいと捉え、本人の許可なく入室することは避けている。入浴準備などの際、本人と一緒に準備をするよう留意して支援している。自立度の高い利用者が多いため、必ず声をかけ了解得たうえで入室するよう統一した支援を行っている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でやりたい事・好きな事・やってみたい事の環境整備に力を注いだ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位の立場を重視した環境・状況の提供に努力した。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中で出来る支援に努力し、家族様にも協力を得た。(架電して必要な物を用意して頂いた)		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいもの・好きな物・調理してみたいものを尋ね、出来る限りで提供した。職員と利用者様と共同作業で手作りの餃子(皮から調理)・自然薯のとろろ・餅つき・かきもち・干し柿等の調理をした。	通常は冷凍食を湯煎で提供しているが、木曜・日曜は手作りの日となっており、利用者希望が実現している。フロアでは米飯、みそ汁を毎回準備している。具材は季節の野菜や職員が自宅で収穫した野菜を使用することも多くある。糠漬けの提供や即席での一品を提供するなどバラエティーに富んだメニューとなっている。冷蔵庫の在庫を利用したおやつ作りも頻回実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の生活状況の把握に努めた。薬に頼らず、旬な食材を提供し、季節折々の食材を提供した。手作りの紫蘇ジュース・梅ジュース・の提供をした。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアのためモンダミンによるうがいを毎食後利用者様に実践した。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用品の使用頻度をトイレ誘導の回数を増やして軽減し自立支援に努めた。利用様に有った排泄用品を提供した。	おむつ使用で退院した利用者が、段階的にパッド使用もなくなり、リハビリパンツで過ごしている事例がある。布パンツ使用の利用者は複数名いるが排泄後さりげなく汚染の有無を確認している。排泄表記録により定期誘導も実施できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維・乳製品・発酵食品を日々の食事の中に取り入れた。又、主治医にも相談して適切な薬も処方してもらい対応した。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その人のタイミングに対応した入浴支援に努めた。	入浴を好まない利用者には午後入浴や本人希望時間の入浴など提案することもあるが叶わない時は、曜日変更などで柔軟に対応している。週2回の入浴は確保できている。また尿汚染などの必要時には適宜の入浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活空間の環境作りに重きを置いた取り組みをした。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の状況を主治医訪問診療時に報告し、過度な薬投与にならないよう努めた。決められた薬服薬時間等は厳守した。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に役割を持って頂き、調理補助・掃除補助・配膳補助・洗い物補助等の作業をして頂いた。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策をしたうえで、外出支援をしたが日常的ではない為、今後の課題である。	今春より、コロナ禍以降提供できていなかった外出支援として事業所前での花見を皮切りに、ドライブや好天の日には海岸への散歩などを計画している。家族との外出はほぼ望めない状況でもあるため、事業所前のスペースを整備することで、日常的にカフェタイムや食事を楽しめる準備をしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は施設で内での金銭の所持・使用はしていない。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じての電話のやりとりの支援をしているが、十分とは言えない。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間も定年劣化してきている為、改修修繕に取り組んでいる。予算もある事から十分に対応しているとは言えないが努力している。	床面がリホームされフロア全体が明るく広々と感じられた。ふんだんに木材が使用された空間は温かみがありゆったりとした空間である。要所要所にソファやマッサージ器が置かれていてもゆとりある空間である。一人になれる空間として、寛ぐ利用者のすがたがみられた。利用者・職員の共同制作作品や個人個人の手作り作品も掲示されている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分でない環境であるが居場所作りには努力した。今の現状で出来る事を工夫した。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好きな物を飾って頂き、出来ない所は職員が支援した。家族様からの支援も頂いた。	自宅での使い慣れた家具や椅子などもあり、思い思いの個性ある居室となっている。プロ顔負けの折り紙作品が所せましと飾られ、ギャラリーと見まがうほどである。木製扉のクローゼットは容量がたっぷり収納でき、整理収納が行き届いている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活の中で、利用者様の力も借りて安全な生活を送れる支援をした。すべからく出来る事はして頂いた。		

(様式2)

事業所名:グループホーム楓の杜

目標達成計画

作成日: 令和8年4月12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域のイベントや季節の行事には、利用者共に参加し楽しんでいる。ただ、地域住民としての参加にとどまり、事業所自体が地域の一員には至らず、日常的な交流ができていない。	地域行事の把握を行い、参加できる項目については進んで参加できるようにする。こちらからも地域の方を呼べるようにする。	施設・地域と連携して情報収集を行い、企画・実現していく。	4か月
2	4	運営推進会議の実施を令和8年1月に行い、3月と続けていたが、そこでの意見をサービスの向上に活かしていない。	運営推進会議を継続的に行い、感染症発生時の対応や予防を速やかに行い、そこでの意見をサービスの向上に活かす。	意見交換した内容をミーティングで話し合い、サービスの向上につなげる。 参加職員・利用者は毎回変え、全員が参加できるようにする。	4か月
3	49	感染症対策をしたうえで、外出支援をしたが、日常的ではない。	海岸へのドライブや施設前ウッドデッキを活用した外に出る機会を増やす。また、家族様との外出の機会を設ける。	外出の計画の作成。おやつでのウッドデッキの活用。 家族への外出・外泊可能のお知らせを行う。	4か月
4	50	現在は施設内での金銭の所持・使用はしていない。	職員と共に地域のスーパー等買い物に出かける。	金銭の所持は行わないが、地域での買い物をを行い、家族に許可を取り、請求する。	4か月
5	51	家族員本人が電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援が十分とは言えない。	家族様に連絡時、利用者との会話の時間をつくる。 また、利用者から電話の希望があれば家族につなげる。 家族に手紙を出す。	利用者の担当職員より家族様へ様子の連絡を月1回以上実施し、その際に希望により電話で家族と話す時間を設ける。 レクリエーションの時間帯で家族や兄弟、親族への手紙の促しを行う。	3か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式3)

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input checked="" type="checkbox"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="checkbox"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input checked="" type="checkbox"/>	⑤その他(1年間行ってきたこと、グループホームの強みをまとめた)
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input checked="" type="checkbox"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input checked="" type="checkbox"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input checked="" type="checkbox"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input checked="" type="checkbox"/>	⑤その他(家族にアンケート結果の送付を行った。)
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input checked="" type="checkbox"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input checked="" type="checkbox"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input checked="" type="checkbox"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="checkbox"/>	⑤その他()